

# 住吉派研究

下原美保 著

中世から近世への時代の変換期を象徴するかのように、  
新たな時代が求めるやまと絵を生み出した住吉派——。  
同派は近世画壇において重要な役割を果たしながらも等閑視されてきた。  
本書は住吉派の興隆期を初めて体系的に紹介し、  
再評価をうながす端緒となる一冊。



住吉如慶筆「東照社縁起」第四卷第二段 紀州東照宮蔵(部分)



藝華書院

住吉派は日本美術史の中で、意識的に、あるいは無意識的に忘れ去られた存在であった。具慶以降、幕府の御用絵師を世襲した流派であるため、依然として粉本主義の括りの中で語られることが多い。しかしながら、初代如慶や二代目具慶は、伝統的で高度な技術や知識を駆使しつつ、テクニカルな演出したドラマティックな表現、時に笑いを誘うユーモラスな風俗描写を得意としていた。

本書では、住吉派研究の第一歩として、当時の画壇や、制作舞台となった宮廷や徳川幕府、如慶や具慶が属した天台宗教団の動向に注目しながら、同派がいかなる理由で画壇に登場し、どのような役割を果たしたのかという一つの道標を提示した。また、当時流行していた古典解釈学の観点より、同派の作品を分析し、再評価を試みた。

まずは、住吉派に対する先入観を捨てて、如慶や具慶の作品をご覧いただきたい。音曲にあわせて軽やかに踊る田楽舞の一行や、画面を縦横無尽に躍動する表情豊かな武者たちに出会えらう。強力で自己アピールするかれらの姿は人間味あふれて愛おしい。

## ●本書の構成

- 巻頭カラー口絵では住吉如慶・具慶による11作品を36頁に渡って紹介。
- 論文篇では住吉派研究の課題を以下の5点に絞って論述する。
  - 「一」なぜ、江戸時代初期に住吉家が再興されたのか
  - 「二」二代目具慶にして、なぜ、幕府の御用絵師に登用されたのか
  - 「三」住吉派の絵師は、どのような画事を誰に求められたのか
  - 「四」住吉如慶・具慶作品における古典受容の在り方
  - 「五」作品評価の再検討——如慶・具慶による新たななやまと絵
- モノクロ挿図、約280点を掲載。伝統的ななやまと絵の技法を駆使しながらも、それを覆すように彼らが筆を以て仕掛けた独自のドラマティックな演出や躍動感溢れる人物描写、当時流行していた古典解釈学からの影響等をビジュアル面からも鮮明にする。
- 代表的作品、如慶筆・紀州東照宮蔵「東照社縁起」、具慶筆・管崎宮蔵「箱崎八幡宮縁起」、具慶筆・寛永寺蔵「元三大師縁起絵巻」および「慈眼大師縁起絵巻」全図を収録。
- 巻末には、住吉派関連資料として年譜・系譜・落款・印章一覧、各種史料、主要研究文献一覧を収める。

● 著者略歴……下原美保（しもはら みほ）関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程単位取得後退学。修士（文学）。福岡市博物館学芸員を経て、現在、鹿児島大学大学院法政学域教育学系（教育学部美術教育講座）教授。「主要論文・著書」主編著「近世なやまと絵再考——日・英・米それぞれ視点から」ブリック、平成25年（2013）、「なやまと絵の継承と展開」（別冊太陽「なやまと絵——日本絵画の原点」平凡社、平成24年（2012）、「近世初期の土佐派と住吉派」（福岡の近世やまと絵展）図録、福岡市美術館、平成14年（2002）。



住吉具慶筆「箱崎八幡宮縁起」上巻絵 III 管崎宮蔵（部分）

# 住吉派研究

下原美保＝著

定価：本体20,000円＋税  
上製・函入、A4判

ISBN 978-4-904706-06-0 C3071



2017年  
4月刊行

**お客様各位** 弊社は直販のみの販売システムです。ホームページ・メール・ファックス・電話・はがき等で直接ご注文ください。振込用紙同封の上、商品をお送りします。また、書店にご注文される場合、書店様から弊社へ連絡いただけますよう、お伝えください。

**書店様各位** 弊社は直販のみの販売システムです。ご注文の場合、ホームページ・メール・ファックス・電話にてお問い合わせください。条件等ご連絡の上、納品させていただきます。

お取扱書店

注文書

株式会社  
**藝華書院**

〒731-0231 広島県広島市安佐北区亀山7-7-32  
Tel:082-812-2686 Fax:082-847-2644  
E-mail:info@geika.co.jp  
http://www.geika.co.jp